

長安寺

昔、この寺院が現在立っている敷地は、13世紀から16世紀にかけてこの地域を統治した小山田氏の別荘がありました。小山田氏の後、新しく統治者となった鳥居元忠は、感貞大和尚としても知られている高僧の生誉上人の推薦で、古い別荘を寺院に改装することにしました。数十年後、生誉上人は、徳川家康將軍自ら、仏教宗派を新たに見出だすための支持を提供され、大成功を収めるように見えたが、それを拒否し、代わりに簡素な茶壺を贈り物として要求しました。家康は彼の願いを認め、壺は今も寺に保管されています。

寺は数世紀に渡って数回失火しましたが、現在の本堂は1725年に再建されました。都留にある、日付の確認できる最古の礼拝堂として、また県内で最高の寺として知られています。